

製品名: インスリン R (リン酸化 Tyr1361) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04848**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	95kDa

抗原情報

遺伝子名	INSR
別名	INSR; Insulin receptor; IR; CD antigen CD220
遺伝子 ID	3643.0
SwissProt ID	P06213
免疫原	抗血清は、ヒト IR の Tyr1361 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1331-1380

背景

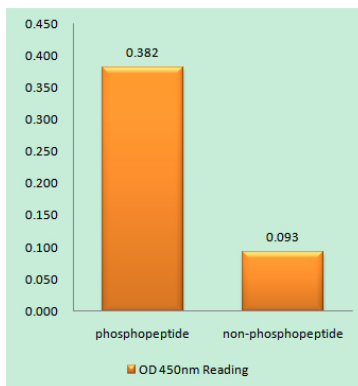
この受容体はインスリン様成長因子 (IGF) と高い親和性で結合する。チロシンキナーゼ活性を有する。IGF I 受容体は形質転換におい

て重要な役割を果たしている。前駆体の切断により α サブユニットと β サブユニットが生成される。ほとんどの悪性組織で過剰発現しており、細胞生存を促進することで抗アポトーシス剤として機能している。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2014年5月]

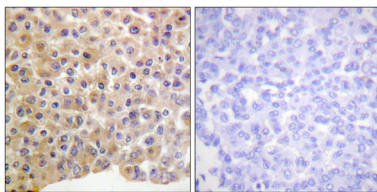
研究分野

アクチンダイナミクスの制御; インスリン受容体; AMPK; 接着結合

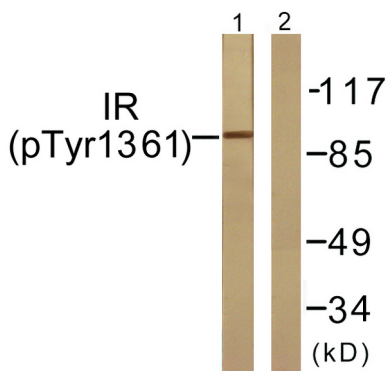
画像データ



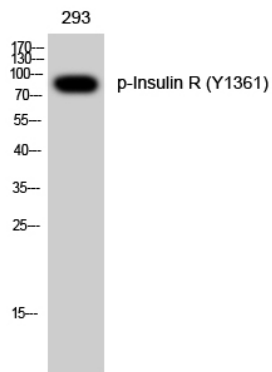
IR (リン酸化 Tyr1361) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) の免疫原に対する酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



IR (リン酸化 Tyr1361) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



熱ショック処理した 293 細胞ライセートの IR (リン酸化 Tyr1361) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化インスリン R (Y1361) ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析